

# 議長賞

堺市立 晴美台中学校 三年

## 親と子

郡山 心良

「犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする運動。」

「次代を担う小、中学生が日常で感じたこと、考えたことをもとに作文を書き、それを通じて運動に対する理解を深めてもらう。」

私はこの運動の募集要項を初めて読んだとき、「理解が深まるだけで、果たして明るい社会が築けるのだろうか。」と、疑問を抱いた。作文を書くだけでは社会を「明るく」するのには、至らないのではないだろうか。理解を深めたその先に一体何があるのだろうか。

私はこの運動を否定したいわけではない。犯罪や非行がなくなり、明るい社会が築かれるのはとても良いことだと思う。ただ、この運動に参加している小、中学生は、そもそも社会を「暗く」する要因にはならないのではないかと思うが・・・。

非行を防ぐにはどうすればいいか。そんなことは、育ってきた環境や家庭内の様子、周囲の人間関係など一人ひとり異なるので、

きっぱりと「これだ」と言ってしまうのははばかられる。しかし、私は、まずは親が自分の子供をしっかりと愛することと、それと同時に適切な距離感を保つことが大切だと考える。

子供の私がこんなことを言っては、腹が立つかもしれないが、日々のニュースを見てみると、子供ながらも「愛情をもって育てられないのなら産むべきではない。」と思わされることが度々ある。愛情を知らない子供が非行に走るケースは多いそうだ。「トー横」や「グリ下」など、連日メディアで取り上げられている言葉であるが、私とそれほど年齢が変わらない少年少女が、様々な違法行為を行い、果ては違法薬物などにも手を出してしまう事例も少なくない。彼らは果たして、自ら望んで、あの場所に身を寄せているのだろうか。家庭や学校などに自分の居場所がないから、同じ環境で生きている者同士、仲間意識が芽生え、そこが唯一の居場所だと錯覚してしまっているのではないだろうか。

だからまずは、子供を産んだのであれば、愛情をもって大切に育てるべきだと思う。自分の子供が悪いことをしてしまったらき

ちゃんと叱り、いいことをしたらそれを認めて褒める。子供にとって親は、誰よりも一番頼れる存在であるべきだと考える。

そしてもう一つ、適切な距離感について。愛情をもって接するのは大切なことであるが、それがエスカレートすると、逆に子供にストレスを与えてしまう場合もある。当然、親子は親しい関係であり、血はつながっているが、別々の人間であるということに違いはない。

だから、愛情をもって接しながらも適切な距離感を保ち、一人の人間として尊重することが非行防止の第一歩になると思う。ただ、これはとても難しいことだとも感じる。

しかし、私が将来子供を産み、母になるとときにはそれくらいの覚悟と責任感をもって育てたいと思う。そうすれば自分の子供が非行に走ることはないだろうし、社会全体がそのようになれば、非行は減るはずだ。

私はこの作文を書いて、本運動についての理解が少しは深まった。しかしそれは、所詮作文を書いた者だけに他ならない。一人ひとりの理解や、責任感、覚悟に基づく行動で社会が変わるとしても、全員がそれを理解したうえで、それぞれが行動に移すのと、一人だけで理解して行動するのでは、社会全体に与える効果は大きく異なる。だからこそ、この社会を明るくする作文コンテストで集まった作文を、できるだけたくさんの人に読んでもらうべき

だと思う。

私自身、この作文を書くまで社会を明るくする運動の存在自体知らなかった。これまで集まった作文をどうしていたのかはわからないが、本当に社会を明るくしたい、犯罪や非行をなくしたいと願うのであれば、もっと広くこの運動が認知される努力をするべきだと思う。

繰り返すが、私はこの運動を否定したいわけではない。今回作文を書いたことで、文章に起こすと理解が断然深まるということを感じた。また、そのうえで自分にできることはなにかと考えるきっかけにもなった。

だが、先述の通り、私一人で理解して行動に移しても、社会を変えることは難しい。だから、大勢の人にこの運動を知ってもらい、作文を読んでもらう。そして大勢の人が各々行動に移す。そうすれば、確実に社会は今よりも明るくなるはずだ。

